

ブラックバーンの準実在論における感受性の役割

小林 知恵 (北海道大学・日本学術振興会)

S. ブラックバーンの準実在論 (quasi-realism) は、私たちの態度の投影という考えを経由することによって、道徳的性質や道徳的事実の存在を前提することなく、道徳的実践に関する説明と正当化の提示を目指すメタ倫理学上のプロジェクトである。本発表では、このプロジェクトにおいて感受性が果たす役割を明らかにするとともに、先行研究では等閑視されてきた彼の規範倫理学理論において感受性がどのように位置付けられるのかという問題と、そもそも彼の準実在論と規範倫理学理論が架橋可能であるのかという問題に応答する。

ブラックバーンは、道徳的実践の説明として、ヒュームに淵源を持つ投影説 (projectivism) を提唱した。投影説によれば、私たちは実在しない道徳的性質を事物に投影することによって、あたかも道徳的判断に対応する道徳的性質が実在するかのように語っている。この過程は、道徳的な要素を含まない信念をインプットとして受け取った感受性が是認・否認といった態度をアウトプットとして変換していると説明される。言い換えれば、私たちひとりひとりがもつ感受性こそが出力の結果として生じる道徳的思考の内容を決定づけるという点で、感受性は道徳的思考の生成において中心的な役割を担う。このように道徳的思考の生成過程から道徳的性質の存在を排除する点で、感受性を基軸とする他のメタ倫理学理論 (D. ウィギンズや J. マクダウェルによる感受性理論) と投影説は袂を別つ。

準実在論の企ての一つである道徳的実践の正当化にかかわる説明として、報告者はブラックバーンの「道徳的真理の構成」というアイデアに着目する。道徳的性質や道徳的事実の存在を前提としない準実在論にあつて、道徳的真理に関する対応説を採用することはできない。その代替肢として提示されるのが、道徳的感受性の改良プロセスを「真理の構成 (constructing truth)」と位置づけることによって、道徳的言明が真であることを「更なる改良の見込みがない道徳的感受性 (態度) の集合のメンバーであること」と定式化する彼独自のモデルである。加えて、このモデルにあつては、ある人の感受性を改良する際に適用される諸基準もまた当人の感受性が是認する基準であるとされる。このような「道徳的真理の構成」というアイデアは、道徳的真理を道徳的感受性の改良に依拠して説明することによって、道徳的事実や道徳的性質に訴えずに私たちの道徳的実践を正当化することに寄与する。こうして、ブラックバーンの準実在論は、道徳的実践の説明的企てにおいてだけでなく正当化にかかる企てにおいても、感受性を中心として理解することができる。

しかし、先行研究においてこのプロジェクトの射程はあくまでメタ倫理学に留まるものとされ、その規範倫理学への含意は検討されてこなかった。ブラックバーン自身、道徳的思考の起源について理解することは、特定の感受性を持つよう強制されることと独立であるとする。その一方で、彼は投影説に与しながら規範倫理学理論として義務論を採用する J. L. マッキーを批判し、動機を重んじるような帰結主義の可能性を「錯誤と価値の現れ方」(Blackburn 1993 所収) で示唆している。しかし、「道徳の社会的機能に着目するならば、帰結主義は [投影説に対する] 自然な補足である」という彼の主張によって、

両者の架橋可能性が十分に示されているとは言い難い。

そこで本発表ではさらに、ブラックバーンが他の著作で展開している規範倫理学理論にかかる考察に基づき、彼のメタ倫理学上の理論と動機を重んじる帰結主義を架橋する議論を再構成する。具体的には、道徳的実践の社会的機能に関して彼が支持する目的志向的な見解と帰結主義の関連を明らかにする。加えて、単純な功利主義の難点を排し人間の開花の多様な可能性を推進する方策として位置付けられている「動機」を、動機の源泉である感受性に遡って考察する。この作業を通じて、投影説と規範倫理学理論の架橋可能性について解明するとともに、彼の規範倫理学理論に感受性がどのように位置付けられるかを明らかにする。報告者の見立てでは、ブラックバーンは、規範倫理学にかかる価値的側面について帰結を基底的なものとし、統制的側面については行為者の動機や感受性を基底的なものとして捉えている。

参考文献

- Blackburn, S. (1984). *Spreading the Word*, Clarendon Press.
——. (1993). *Essays in Quasi-Realism*, Oxford University Press.
——. (1998). *Ruling Passions*, Oxford University Press.
Mackie, J. L. (1977). *Ethics: Inventing Right and Wrong*, Penguin Books.
McDowell, J. (1998). *Mind, Value, Reality*, Harvard University Press.
Wiggins, D. (1987). *Needs, Values, Truth*, Oxford University Press.